

みなとつぷ

Takanawa
Community News Magazine

高輪地区情報紙

2014年3月
Vol.23

三田4・5丁目・高輪
白金・白金台



発行：高輪地区総合支所 協働推進課
編集：みなとつぷ編集室

CONTENTS

② 活かそう地域の 商店街

●メリーロード高輪

読者のおすすめ料理

わたしだって
地域の一員!

③ この街に この人あり

●作曲家・編曲家・プロデューサー
都倉 俊一さん



④⑤ 地域のあしあと

●高輪地区の歴史的建造物②

⑥ 暮らしプレイバック

私の自慢 地域の自慢

⑦ 子ども記者のページ

●たかなわフェスティバル

⑧ 区からのお知らせ



表紙絵 虎屋 (高輪・現在休業中) 【作者】小糸 金太郎さん

お互いさま!

人は一人では生きていけません。「人間」ですから、人の間で生きているのです。それならお互いに助け合って、楽しく生きていきたいものです。でも人は、他の人に助けってもらったこと、好くしてもらったことは、ついつい忘れ、反対に何かしてあげたことはいつまでも覚えていて、「あの時はあんなにしてあげたのに…」などと思いがちです。

私の心に残っている話をご紹介しますと思います。

部屋の真ん中に、ご馳走が沢山乗っているテーブルがあります。そしてその周りには、長い柄のついたスプーンを持った人々が座っています。皆、その長い柄のスプーンで、目の前にあるご馳走を食べようとするのですが、隣の人の柄と自分の柄がぶつかり合い、しまいには喧嘩になって、山のようなご馳走を前にしながら、誰一人お腹一杯になることはなく、皆、飢えて痩せ衰えていて、地獄のような光景です。

一方、もう一つの部屋にも、同じように沢山のご馳走が乗ったテーブルがあり、同じように柄の長いスプーンを持った人たちが座っています。そしてその人たちは、各自持っている長いスプーンでご馳走を取り、お互いに向かい側の人の口へ運んでいるのです。ですから誰もが皆お腹一杯になり、満足して、ニコニコしています。まさしくこれが極楽です。

この話は、地獄も極楽も、同じところ、その人の心の持ちようで決まるものということを言っているように思います。

今日、私たちはとかく自分の都合や立場ばかりを優先し、他の人のことなど頓着しないという風潮が見受けられるように思います。

ここらで少し立ち止まり、自分の持つ長い柄のスプーンを、人のために使うよう心掛けてみませんか。そんな小さなことの積み重ねが気づかないうちに、いつか大きな幸せにつながるかもしれない。

そんなことを高輪地区から発信したいと思います。



大駒会長

二本榎通り沿いにあるメリーロード高輪（旧高輪町栄会）商店会長の大駒敏さんからお話を伺いました。

二本榎通りは江戸時代以前からある歴史ある街道で徳川家康が江戸に入る時にこの道を通ったという説があります。メリーロード高輪は、昭和20年代から通り沿いに店が集まって作られた商店街です。昭和30年代、40年代の頃は広い範囲で買い物客を集め、近隣のお屋敷に住む人たちも顧客とし商店街は繁盛し、最盛期は160店舗が商店会の会員となっていました。ところが屋敷は減り、顧客はスーパリーに流れ、現在では会員数は58店舗となっています。

店舗数の減少に危機感を抱いた商店会が、活性化の一つとして商店街の名前を全国に公募し、そこで集まった名前を理事会で審議した結果、楽しく明るいとい



メリーロード高輪は地域の歴史とともに歩みます



う意味の「メリーロード高輪」(Merry road TAKAHASHI)に決まりました。

また、街路灯をLED照明にして、数を減らしても明るさを保つことにより歩きやすい街に変わりました。

この商店街の周りには多くのお寺があることから、長い歴史を誇る和菓子屋さん、お茶屋さん、花屋さん、葬儀屋さんなどがある一方、廃業した後の店に新規に参入して来た人たちがレストランなどを開いています。

また、近くには東海大学や明治学院大学があり、これらの大学と連携して、地元イベントである清正公祭り、高松桜まつり、東海大学建学祭、明治学院大学白金祭などにも積極的に参画・協力しています。

メリーロード高輪は、今後益々発展が予想される品川や泉岳寺の近くで、人の出入りも、人口も増加することが予想されます。これらの人たちの心をつかむような個性ある商店街に変化していけば、一段と活性化した商店街になると思いました。

(担当/菅野、森、安藤)



LED化した商店街灯

ポルトガル風 タコとじゃがいものつぶし合え (Polvo a lagareiro)

ボルボ ア ラガレイロ

読者 中嶋路子さん(三田5丁目在住)

のおすすめ料理



●作り方

1. じゃがいもは皮のまま、器に少し水を入れ、ラップして電子レンジでチン!
2. チンしたじゃがいもは軽くつぶす。
3. タコの足は一口大に切る(柔らかいほうが好きな人は炭酸水で煮る)。
4. にんにく、たまねぎはミジン切り。
5. フライパンにオリーブオイルを入れ、たまねぎ、にんにくを炒める。
6. たまねぎがしんなりしたら、一旦フライパンから取り出す。
7. フライパンにじゃがいもを入れ、あまり動かさずカリッとさせてからタコを入れる。
8. (7) にたまねぎ・にんにくを加えて炒め合わせ、塩少々とパセリを混ぜて出来上がり!

※お好みで黒こしょうをふってもおいしいです。

●材料(3~4人分)

- ゆでタコ……………足5~6本
- 小粒のじゃがいも……………10個
- オリーブオイル……………大さじ3
- にんにく……………1片
- たまねぎ……………小1個
- パセリ……………適量
- 塩……………適量

●作者のひとこと

タコは多すぎないように。じゃがいもがタコの水分を適当に吸って、ご機嫌な味です!

(担当/安、谷知)

わたしだって地域の一員!



さくらちゃん

(日本テリア/メス/9歳/白金4丁目在住)

わたしの名前は「さくら」。9年前、宮崎のリーダーさんから生後2ヵ月でこの家に来た日本テリアです。1700年頃にオランダから九州に渡来したスムース・フォックス・テリアと日本土着の小型犬を配合し、抱き犬として改良されたんですって。顔は黒くて身体は白い。短毛で、痩せっぽち、寒さにはめっちゃ弱い。特に冬は散歩も嫌だし、一日中部屋の中の陽の当たる場所で居眠りをしています。お母さんはそんなわたしを見て「何か趣味でも持ったら?」と言いますが、陽のあたる場所で寝ていると、暖かくて本当に幸せな気分になるんです。

お母さんは金魚とインコ以外の動物を飼ったことが

なかったの、初めはトイレのしつけも出来ないし、散歩の時もリーダーシップがとれずに、わたしも大変でした。それでトレーナーさんに来てもらって、お母さんがトレーニングを受けました。その時の名残りで、うんちとおしっこをちゃんとトイレシートですると、今でもご褒美のお菓子がもらえます。だから内緒だけど、うんちやおしっこは、一度にたくさん出さないの。少しずつ出して、何度もおやつを貰うんだ。わたしだって、頭を使ってるんだから。その他に出来るのが、二足歩行とハイ・タッチとジャンプ。おやつのためなら、何でもやるよ!



(担当/松島、谷知)

募集しています!

あなたの自慢の料理(レシピ)や自慢のペットを紹介してみませんか?

①記事(原稿)、②写真(プリント[L判]またはCD-R)、③氏名、④住所、⑤電話番号、⑥FAX番号、⑦メールアドレスを書いて下記あて先に送付してください。※掲載をお約束するものではありません。※応募書類は返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。

●あて先・問い合わせ先:高輪地区総合支所協働推進課「地域情報紙担当」〒108-8581 港区高輪1-16-25 TEL 03-5421-7123

この街にこの人あり

作曲家・編曲家・プロデューサー 都倉俊一さん

世代を超えて感銘を受けるような音楽をつくりたいですね

音楽に接したのはいつ頃からですか

母はピアノを弾くのが趣味だったので、音楽教育に関心が高く、4歳の頃からヴァイオリンを習わされました。兄弟が3人いたので家族でカルテットを演奏することを夢みていたようです。

小学校・高校生時代はドイツで過ごされたのですか

父は外交官でベルリン総領事、イスラエル大使などをしていました。ドイツではボンとベルリンで教育を受けました。私の小学校時代のドイツは、アメリカの占領下であり、アメリカンスクールに通っていました。ベルリンはまだ高い壁があった時代でした。

ドイツは音楽教育の基盤がしっかりしていたので、作曲の基本をマスターすることができました。

作曲家として活動を始めたのはどんなきっかけからでしたか

1960〜70年代は、テレビが急速に普及しつつある時代で、音楽番組も多く作曲のニーズが多かったのです。大学2年生の頃、最初はアルバイトのつもりで曲を書いていました。中山千夏さんに



書いた曲「あなたの心に」が、たまたま大ヒットになってしまいました。ちょうど、時代が私に合っていたのでしょう。

それからほとんど曲の依頼が来てものすごく忙しくなりました。レコード大賞など数々の賞をいただき、ピンクレディーの歌う曲は大人から子どもまで口ずさみ一種の社会現象になってしまいました。30歳頃には、私が作曲・プロデュースしていたアーティストは28人にのぼりました。

今までつくられた曲は何曲位ありますか

商品化されていないものを含めて、作家の阿久悠さんをつくった曲だけで1000曲以上あります。

自分でも数えていませんが、何千曲になると思います。机に向かっている時間以外の時でもいつも頭の中で曲をつくっていました。

作詞と作曲とはどちらが先になるのですか

作詞家や曲の種類によっていろいろなケースがありますね。阿久悠さんとのコンビの場合は90%位作曲が先で、それに詞をつけていただくというパターンでした。校歌などを依頼されてつくめる場合は、詩が先でそれに曲をつけます。

歌手をイメージして作曲することがありますか

歌手の声にほれて、この歌手のために曲をつくりたいなあと思うことがあります。例えば、高橋真梨子さんの「ジョニーへの伝言」の場合なんかがそうでした。でも、なかなかこちらがそう思っても実現しないことの方が多いです。

海外でも仕事をされていますか

日本で寝る間もないほど忙しくなったので、少し休みたかったのと、もう一度音楽の勉強をやりたいだったので、31歳の時にアメリカに渡りました。ロサンゼルス（UCLA）カリフォルニア大学ロサンゼルス校に通って音楽の勉強をしつつ、ミュージカルの音楽を制作する仕事をしていました。その後、ロンドンに移り、ロンドンが気に入って7年間過ごしました。ロンドンでもミュージカルの制作をしていました。

海外で仕事をされた感想は

海外で評価を得るのは日本での蓄積が通用しないので、最初はなかなか大変でした。しかし英語圏は世界中に広がっていったので、一旦ヒットすると香港ではやったり、オーストラリアで歌われたりするもので、すぐにグローバルになります。それと、発声の仕方が人種によって違いますので、例えばアフリカ系の人やフィリピン人など、すごくよい声をだす歌手に会えた時は感激しました。

作曲では、ほんとうに順調にお仕事をされていたようですが、何か挫折されたような体験はありますか

挫折したとあまり感じない性格なので、すぐに思い浮かびませんが、こんなことがあります。ロンドンで私がミュージカルの音楽を制作した時、渾身の力を込めて制作し、自分ではできばえもよかったと思っていました。ところが最初の公演の時の新聞に出た批評はめちゃめちゃに悪く書かれました。そのため、客の入りも悪く2週間で公演は打ち切られました。さすがの私もショックを受けました。外国での仕事はきびしいものです。

1960〜70年代の頃と今では音楽が変わりましたか

1960〜70年代の頃は、音楽はテレビやレコードで家族や友人たちと一緒に聴く時代でした。音楽はまさにコミュニケーションツールだったので、ヒット曲はすぐに社会全体に広まりました。まさに、音楽が「空気にふれて」伝播したのです。

今はYouTubeなどの動画投稿サイトやネット配信が発達し、個人個人が自分の好みの音楽をイヤホンで聴く時代になったので、音楽が多様化しましたが、「空気にふれなくなった」のです。ヒット曲も社会に広まりません。でも楽器を演奏したり作曲したりする人も増え音楽の質は高くなっていると思います。

これからどんなお仕事をされたいですか

若い世代だけでなく、世代を超えて感銘を受けるような音楽をつくりたいですね。この前、71歳のポール・マッカートニーの公演を聴きに行ったのですが、同年代の人はもとより、ビートルズを知らない若い世代の人も感激のあまり涙を流していました。

日本にも昔から伝統的な音楽がありました。それらの蓄積をベースに音楽を日本の文化の一つとして世界に発信できるようなものをつくりたいです。

これから日本及びアジア系の人たちが世界の人からカッコいいともてはやされる時代もくると思います。日本の若い方もこれから臆せず、世界に羽ばたいてほしいと思います。

高輪地区に小さい時からお住まいですか

父は外交官で海外勤務が多かったので、私が3歳から6歳までは都営高輪一丁目アパートに住んでいました。高輪

一丁目アパートはコンクリート造で水洗トイレなど当時では最先端の設備が整っていました。近くにある旧細川邸のシイの木、洞に大きなふくろうがいて、鳴いていたのを憶えています。

ドイツから帰ってきて、高松宮邸前のマンションにしばらく家族と住んでいました。

高輪地区について、どのように感じていますか

今も白金台に住んでおり、高輪地区が好きで、日本にいる時は大部分高輪地区に住んでいました。犬を連れて、昔住んでいた高輪一丁目あたりをよく散歩しています。できれば、これからもずっと高輪地区に住んでいたいと思っています。

取材を終えて

都倉さんは背が高くダンディで素敵な方で、もって生まれた才能に恵まれ、時代の波にのって大きく開花された方だと思いました。内容は濃くグローバルな視点から熱心に音楽についてお話しくださり、感銘を受けました。

(担当/安藤、滝川、明石、河村)

都倉 俊一 (とくらしゅんいち) 【プロフィール】

1948年生まれ。学習院大学在学中に作曲家としてデビュー。その後、アメリカ・イギリスで作曲法、指揮法、映像音楽を学び、海外各国で音楽活動を行う。

70年代から作曲活動を始め「日本レコード大賞 作曲賞」「日本歌謡大賞」「東京音楽祭最優秀作曲賞」など、日本の主要な音楽賞のほとんどを受賞する。世に出したヒット曲数は1,000曲を超え、レコード売上枚数は4千万枚を超える。その他多くの映画音楽、テレビ音楽を手掛ける。

80年代からは、活動の場も海外にシフトしていく。1983〜85年アメリカでミュージカルの制作を行う。1988〜94年ロンドンにてミュージカルを制作。2010年日本音楽著作権協会会長に就任。2011年文化庁文化審議会正会員。

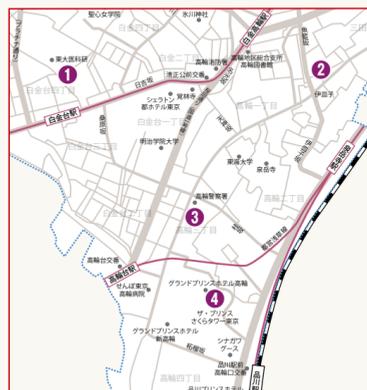
2012年、国立競技場将来構想有識者会議委員就任。

地域のおしあと

高輪地区の歴史的建造物

2

今号では、前号に引き続き、高輪地区の歴史的建造物を取り上げています。調べてみると、警察署・消防署・教会・小学校が殆ど同じ時期に建築されています。つまり1930(昭和5)～1935(昭和10)年頃、二本榎周辺は大変な建設ラッシュだった訳です。今のように大型トラックやクレーン車が行き交うようなことはなかったと思いますが、どれもが大型プロジェクトですから、当時はどんな様子だったのでしょうか。想像するだけで、何だか楽しくなりません。



1 東京大学医科学研究所(1号館) 白金台4-6-1

1937(昭和12)年竣工 鉄筋コンクリート造3階建て、一部5階建て地下1階
設計 内田祥三(東京大学14代総長)

目黒通りに威厳に満ちた正門があり、自然豊かな樹々に包まれた先に時計台のある褐色タイル張りの壮大な建物が、東京大学医科学研究所(1号館)で、館内には、最先端の医療開発研究施設等があり、設計者は東京大学本郷キャンパス一連の建物を設計した内田祥三博士である(東京大学14代総長)。内田ゴシックのデザインとよばれる手法で、中央玄関部分は5階建て、それを中心に3階建て両翼部がコの字形左右対称に広がっていて、外観はスクラッチタイルを基調として、芋目地に積まれており、それぞれの間に控え壁を配列させている格調の高い、歴史的景観をかもし出す荘厳な建造物である。



1号館正面



正門、左は門衛所



(上・右) 1号館外観の一部



旧附属病院
玄関天井の
ステンドグラス

2 キリスト友会フレンズセンター(旧宣教師館) 三田4-8-19

1922(大正11)年建設、1930(昭和5)年増築
木造2階建て外壁モルタル塗り、屋根寄棟造スレート葺き(地下室付き) 142㎡
設計 ヴォーリス建築事務所
文化庁 登録有形文化財

ヴォーリスの設計で関東大震災前に建てられ残っている数少ない西洋館。東日本大震災の時、煉瓦造りの煙突がずれて危険になり、屋根から下ろしている。最近、耐震補強をしているが大分傷んできている。アメリカ人宣教師の家として建てられた。縦長の上げ下げ窓など当時のアメリカの住宅の様式を見る貴重な建物。1階は居間、食堂、キッチンがそれぞれ分けられている。食堂、キッチンにある作り付けの収納など、手の込んだ細工が施されている。かつては2階は寝室などで、地下には収納などがあった。



外観 煙突はとりはずされている



食堂 作り付けの食器戸棚がある



暖炉のある居間



2階の窓

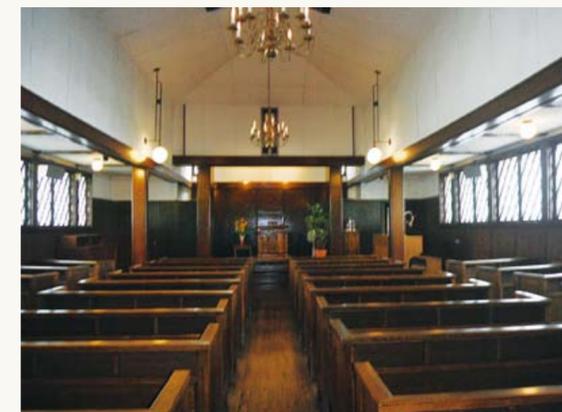


キッチン

3 日本基督教団 高輪教会礼拝堂 高輪3-15-15

1933(昭和8)年竣工 木造平屋建て(1部2階)
設計 岡見健彦(1898-1972)
2004(平成16)年 東京たても百選に選定

旧帝国ホテルの設計者として有名なフランク・ロイド・ライトの門下であり、教会員の岡見健彦の設計による日本で最初に建てられたライト風建築の教会である。外観・内観ともに、柱と壁を組み合わせたシンプルな構成美が特徴。とくに礼拝堂正面は鳥居型の柱・梁を組み合わせた構成で注目される。加えて随所に開口部を設けた光の演出がなされている。多くの環境的配慮と共に、設計は使い勝手を重視した機能的なもので、各所に設けられた充実した収納空間がみられる。玄関に建てつけられた傘立て箱や、切妻の大屋根によって生じる僅かな空間の隅々まで活用されている。2階塔屋の内部はたたみ敷きで、床の間が設けられた和室である。もとは副牧師が居住していた。「教会は船である」という思想から、礼拝堂は船形天井であり、船内のような円窓が各所に使われている。また、教会堂の建て方として基本的には主祭壇が東を向いて建つという約束事『オリエンテーション』にも叶っている。ライトの「有機的建築」の魅力を正しく受け継ぎ、その理想を遺憾なく再現したものとして、日本の近代建築史の上で評価の高い作品である。設計者の岡見氏のスケッチには、外観に十字架はなく、教会員の方の話では、いつごろ現在のように取り付けられたかは不明、とのこと。



礼拝堂



岡見健彦スケッチ
(「高輪教会百年の歩み」より)



現在の外観
港区立郷土資料館提供
(「港区の歴史的建造物」より)



2階塔屋の内部



礼拝堂の船形天井

4 グランドプリンスホテル高輪・貴賓館 高輪3-13-1

1911(明治44)年竣工。鉄骨煉瓦造2階建て
設計 宮内庁内匠寮 片山東熊、木子幸三郎、渡辺譲
1972(昭和47)年改修(建築家・村野藤吾による)

グランドプリンスホテル高輪の一角にある貴賓館。このあたり一帯は戦前、北白川宮、竹田宮、朝香宮の宮邸が連なる御用地であり、貴賓館はもともと竹田宮邸として建設された洋館である。戦後、1953年にはプリンスホテルとなり、現在は婚礼などに利用されている。外観は、トスカナ様式の玄関車寄せ、イオニア様式の2層目と、1階と2階の様式が違う興味深い特徴を持っている。内部は、フランス・ルネサンス様式が取り入れられ、2階の「桐」「麝香」「葵」の間は、特に豪華な装飾が施されている。庭園側「鳳凰」の両脇にはベイウインドウを設けた部屋が左右対称に配置されている。またホテルの敷地内には約20000㎡の日本庭園(皇居新宮殿なども手がけた作庭者楠岡篤二による)を有し、四季折々の花木や池などの他、観音堂(奈良県長弓寺にあった鎌倉時代の三重塔の一部)や鐘楼(奈良県念仏寺より移築)や山門など、歴史的にも由緒ある数多くの史跡がある。



貴賓館(日本庭園側)



素晴らしいステンドグラスと階段



室内(いたるところに優雅な装飾がほどこされている)



日本庭園(正面の太鼓橋を渡ると観音堂が見える)



正面玄関(気品あるフランス式マンサード屋根とドーマ窓)

平和で静かに暮らせる今が幸せです

生まれてから現在まで高輪に住み、二本榎通り界隈の移り変わりを見てきた田口欽一さん（79歳）に戦前、戦後の体験などを伺いました。

暮らしプレイバック

お話を伺った人 田口 欽一さん



田口さん

私が生まれたこのあたりは、江戸時代、廣岳院門前と呼ばれていたそうです。1873（明治6）年、時の政府による地租改正があり、初めて土地の所有権が認められて、地租を払うことになりました。

私の祖父がもらった東京府発行の「地券証」は今でも金庫にしまっています。私が生まれたのは1934（昭和9）年ですが、今では当たり前のようですが、当時としては珍しく自宅ではなく、近くの堀産婦人科で生まれたと聞きました。

1941（昭和16）年、当時の高輪台国民学校に入学、その年の12月8日に太平洋戦争が開戦となりました。東京大空襲など戦況がはげしくなったため、4年生になった1945（昭和20）年3月に軽井沢に疎開しました。

使っていたのが原因のようでした。

戦後の二本榎通り界隈は、ほとんどが戦災をのがれ、乾物屋の「萬豊（まんとよ）」さんや、高輪二郵便局の横並びの油屋の「池田屋」さんなど戦前と同じ町並みでした。

ただ、物資が不足していてお店はあっても物がなく、都電に乗って銀座の三越へ買い物に行ったとき、乾燥させた大根の葉を束で売っていたのを覚えています。

1946（昭和21）年1月から高輪台小学校の5年生に編入しました。校舎は鉄筋コンクリート造りだったこと、迷彩色に塗られていたおかげが無事でしたが、近くの御田小学校は木造建てだったため焼けてしまいました。

そのため、授業を2部制にして御田小学校の生徒たちと高輪台小学校の校舎を共同で使いました。中学校は新制高輪第二中学校ですが、校舎もなく、先生も足りず、教科書もない状況でした。校舎は今の私立高輪中学校の校舎を借りていました。

教科書は印刷したものを神保町の三省堂まで生徒が取りに行き、製本までしました。話は前後しますが、高輪3丁目にある味の素記念館は元は味の素の創始者である鈴木三郎助氏の邸宅だったそ



味の素記念館に寄贈した写真

うです。私の祖母と鈴木家のお嬢さんが長唄の師弟の間柄だったことで、邸宅が建った1932（昭和7）年ごろ、稲荷勧請（かみじょう）のお祝いに祖母も呼ばれたそうです。その時みんなで写した写真が1枚我が家に残っていたのですが、貴重な1枚ということ、この度、味の素記念館に寄贈しました。写真には丸鬚姿の祖母も写っていて、背景には今でも記念館に残る石灯籠が写っています。

高輪地区で気に入っているのは、旧高松宮邸近くの松ヶ丘あたりです。以前はよく散歩に出かけ、特に春はウグイスの鳴き声が出てさわやかな気分になりました。平和で静かな環境で暮らせる今に幸せを感じています。

（担当／吉田、安藤、森）

高輪地区を彩るすばらしい人材をご紹介します。仕事のこと、趣味のこと、地域のボランティア、誰にも真似のできない特技…テーマは問いません。私の知っているあの人のこんな活動を知ってほしい、こんな面を紹介したい、という心当たりのある方、ぜひご一報ください。もちろん自薦も大歓迎！あなたの情報を待っています。

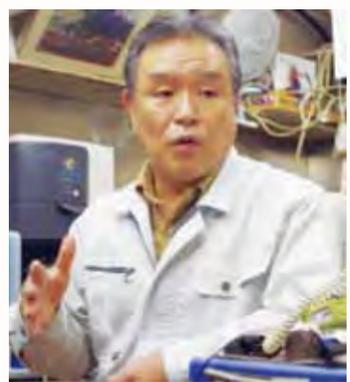
私の自慢 地域の自慢

新しいものづくりを目指す集団 「みなとものづくりルネッサンス」(MMR)

「みなとものづくりルネッサンス」略称「MMR」は、明治時代から伝えられてきた白金の町工場の技術を生かして、2世・3世が集まり新しいものづくりのあり方を模索している集団です。

代表の前田勝光さんからお話をうかがいました。

「みなとものづくりルネッサンスは、11年前から活動をしており、精密板金、金属複合切削、旋盤加工、ねじ加工、樹脂切削などそれぞれ専門技術を持った10人のメンバーで構成されています。全員30代、40代、50代の若いメンバーです。月2回集まって議論したり、お互いの工場を見学したりしています。国際的なアートイベントで1万人のアートイストが出品するデザイン・フェスタにそれぞれが作品を出品していて、精密な加工技術を生かしデザインさ



熱く語る前田さん

れた作品はなかなか人気があります。デザインと加工技術がうまく連携できれば、新しいものづくりができるのではないかと考えています。また、足の補助具である介護用品を共同で製作したこともあります。介護用品にはさまざまなニーズがあり、これからのものづくりのひとつの分野として期待しています。

さらに、港区には歴史的な観光資源が多いので、観光拠点にパークロードを入れた金属板を設置すれば、金属板に携帯電話をかざすだけでその説明の画像や音声が出れるようにすることができると。メンバーからいろいろアイデアが出てくるので、実現に向けて鋭意努力中です」

白金・高輪地区は東京の町工場発祥の地です。町工場がどんどん消えていくのはさびしい限りです。伝統的な技術を生かして新しいものづくりに挑戦する「みなとものづくりルネッサンス」と、メンバーのこれからの活躍に期待したいです。

デザイン化された金属加工品やアクセサリ

（担当／河村、渡邊、安藤）

子ども記者が たかなわフェスティバル取材しました!

2月22日の「たかなわフェスティバル」で「子どもみなとっぴ編集室」を開き、子ども記者が大活躍しました。今回応募してくれた12名が5つのグループに分かれ、編集メンバーやボランティアの方々のサポートのもと、フェスティバルの様子を取材し、記事を作成しました。イベントを楽しみながらインタビューや写



• 舞台裏がすごかった。(けい)
• インタビューが楽しかった。(か'ん)

高輪グリーンミュージックフェス
舞台裏の秘密
音楽などをコントロールして録音している。以前は手で動かし、照明もパソコンでできたと言っていました。



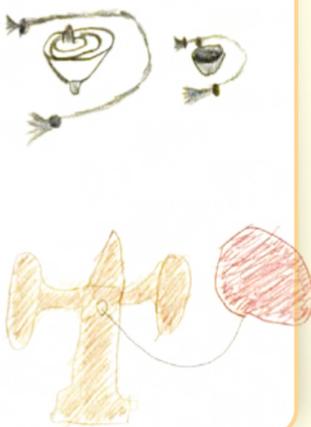
真撮影をした後に、工夫しながら人に伝わりやすい文章を考えたり、絵を描いたりして記者としての役割を果たしました。



「子どもみなとっぴ編集室」は、終始笑いに包まれた活気のある部屋でした。

昔のこととあそび

絵巻物の作品が本当に春が来たという感じがわかった。ほかにもよめが童食食会は、もっくひなまわりで「すよ」というのがわりました。けん玉の持ち方をおしえてもらってしょうずになれました。



担当：笹田 華子 (小1)、高橋 宏輔 (小2)、田中 言都 (小2)



ちょうせい室ではいろいろなきかいがありました。こっくにうつつであるきかいは、マイクの音をちょうせつするきかいです。ほかにもいろいろなきかいがありました。おもしろくなかったこともあるけど、とてもたのしかったです。

担当：日下 健 (小3)、小泉 花音 (小4)



担当：長坂 侘玖 (小2)、宇佐美 周也 (小3)

フォトフレームをつくったよ!

すぎの木のいたに糸のいたをまわりにとりつけてまっぼりなどのかざりをつけてかんせいです。ドライバーをつかうのかいたしへんだ。たりおわりのみためをかかせるのか楽しかったりした。



びんしゃしゅミレーターにのったよ! いてんしゃてゲームみたいかものをやった。まずかしかったけど、いかにあわなかったのがたのしかった。

担当：山本 陽菜 (小1)、荒木 波香 (小2)、小泉 日菜珠 (小2)

安藤編集長から一言

グループそれぞれで取材の仕方、表現の仕方などに個性がはっきりできてよかったと思います。また、自分の言葉で感想も書かれており主体性ができていました。絵やイラストもしっかり書けています。グループ作業も仲良く行っており、それぞれ作業を楽しんでいるようでした。ただ、早く作業が終わったグループは退屈して遊んでいました。もう少し時間配分を考えましょう。



来て下さい!



担当：野澤 晶子 (小3)、百瀬 水南 (小4)

区からのお知らせ

タウンミーティング TAKANAWA 2014 メンバー募集!!

高輪地区(三田4・5丁目、高輪、白金、白金台)の魅力や課題解決について、高輪地区総合支所と協働で考え、活動してみませんか。

- 対象 高輪地区に在住・在勤・在学の人、または高輪地区のために活動したい人
 内容 タウンミーティングTAKANAWAのメンバーとして、それぞれのテーマに沿って活動していただきます。
 会議・活動 ●平日夜間(おおむね月1回程度)の会議 ●部会によっては土・日等にイベントを実施 募集人数 60名程度

募集グループ

募集内容	任期	募集人数	活動の頻度	第1回全体会議のお知らせ
1 地域情報紙グループ 高輪地区の地域情報紙「みなとつづ」の発行に向けて、編集委員が、企画・取材・編集を行います	1年間 平成26年4月 ～ 平成27年3月	15名程度 ※応募多数の場合は抽選	平日夜間の会議 (各号の編集スケジュールによる) ※取材・撮影は、主に昼間に行います。	平成26年4月11日(金) 午後6時30分～ 高輪区民センター 1階集会所 <内容> 各メンバー自己紹介 活動内容説明等
2 たかなわフェスティバル実行委員会 高輪地区内で活動する方々の音楽等のイベントを企画・開催します		15名程度 ※応募多数の場合は抽選	平日夜間の会議 (おおむね月1回程度) 土・日等にイベントを実施	
3 デジタルアーカイブ実行委員会 高輪地区内の「今」「昔」の写真を収集・デジタル化し、地域の貴重な資産を未来へ残す取組を行います		15名程度 ※応募多数の場合は抽選	平日夜間の会議 (おおむね月1回程度) 土・日等にイベントを実施	
4 高輪コミュニティ広場実行委員会 だれもが気軽に訪れ、互いに交流できる「コミュニティ・サロン」を開設します		15名程度 ※応募多数の場合は抽選	平日夜間の会議 (おおむね月1回程度) 土・日等にイベントを実施	

- 留意点 ●報酬・交通費・取材費等の支給はありません。 ●会議の際、保育を希望する人は、ご相談ください。
 申し込み方法 希望するグループ名・住所・氏名・年齢・性別・職業(学校名)・電話番号・FAX番号・メールアドレスを明記し、郵送またはFAXで下記へ。
 ※重複してグループへの応募は可能ですが、応募多数の場合は調整させていただきます。
 しめきり 平成26年3月31日(月) <必着>
 あて先・問い合わせ 高輪地区総合支所 協働推進課 地区政策担当 〒108-8581 港区高輪1-16-25 TEL: 5421-7123 FAX: 5421-7626

探しています!!

「昔あそび」「写真撮影」「昔なつかしい写真」「ポスター、チラシ作成」

高輪地区総合支所には、地域から以下の相談・問合せがあります。

- 昔あそび(コマ・ベーゴマ回し、お手玉、けん玉、あやとりなど)が出来る方を紹介してほしい
- 写真撮影に興味がある方を探している
- ポスター・チラシ作成を手伝ってほしい
- 昔なつかしい写真をお持ちの方を探している



そこで、「昔あそび」、「写真撮影」、「ポスター、チラシ作成」「昔なつかしい写真の貸出」の取り組みに興味がある方を募集します。

- 申し込み方法 興味がある分野・住所・氏名・年齢・性別・職業(学校名)・電話番号・FAX番号・メールアドレスを明記し、郵送またはFAXで下記へ。
 しめきり 平成26年3月31日(月) <必着>
 あて先・問い合わせ 高輪地区総合支所 協働推進課 地区政策担当
 〒108-8581 港区高輪1-16-25
 TEL: 5421-7123 FAX: 5421-7626

施設予約システムが昨年7月より新しくなりました

「施設予約システム」は、港区内にある区民センター等の文化施設、スポーツセンター等のスポーツ施設を利用するにあたり、コンピュータを活用して各施設の利用申込み手続きや情報提供をするシステムです。昨年7月より新しいシステムに移行しています。どうぞご利用ください。

新システムの導入により、インターネット予約がより便利になりました。

- 〔パソコン用URL〕 <http://www.city.minato.tokyo.jp/map>
 〔携帯電話用URL〕 <http://www.city.minato.tokyo.jp/mobile/shisetsu>

システムの利用時間の延長

- 予約の申し込み(抽選申し込みや空き予約申し込み)ができる時間
▷午前5時から午前0時へ拡大。
- 抽選結果や空き状況等の情報照会ができる時間
▷24時間へ拡大。

平成26年4月より高輪区民センターの指定管理者が替わります

高輪区民センターの運営スタッフが、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団から、社会福祉法人奉優会に替わります。引き続き円滑な運営をめざしてまいります。高輪区民センターをこれまでと同じく、どうぞご利用ください。何かありましたら、遠慮なく高輪地区総合支所管理課管理係までご相談ください。



問い合わせ

- 高輪区民センター
▷TEL: 5421-7616
- 高輪地区総合支所 管理課 管理係
▷TEL: 5421-7124

(左から)小林所長、二村副所長です。よろしくお願ひします。

品川駅高輪口周辺 タバコマナー&クリーンアップキャンペーン

- 地域の方と事業者、行政が協力して、①品川駅高輪口周辺の清掃・美化活動、②みなとタバコルールの啓発活動(啓発品の配布)を行います。当日直接集合場所へ。参加者には記念品もあります。ぜひ、ご参加ください。

- 日時 平成26年3月24日(月)午前10時集合(雨天時:3月25日(火)に延期)
 集合場所 国民生活センター前(高輪3-13-22)
 問い合わせ 高輪地区総合支所 協働推進課 協働推進係 TEL: 5421-7621

編集だより

- ▼都心と思えないほど美しい緑に包まれた、内田ゴシックのレトロな佇まいのある「医科研」は、今も昔も私の憩いのスポットです。(明石)
- ▼今年度は本号で完了します。ほっとしたような、少しもの足りないような複雑な気持ちです。地域のみなさんのご協力に感謝しています。(安藤)
- ▼私が生まれる前から、この場所にあり、これからも存続していく建築物。ここで生活していた人々や、未来の人々と共有するのかもしれない、連帯感が感じられます。(伊関)
- ▼パワフルな子ども記者と取材、編集をして元気をもらい、さらに編集の楽しさを改めて感じる事ができました。(内村)
- ▼本号では「子ども記者」の皆さんが大活躍、7ページに楽しい記事を書いてくれました。本紙に参加していただいていたことにありがとうございます。(梶)
- ▼作曲家都倉俊一先生ありがとうございました。年齢のせいですが、生活の各場面でも既知の楽曲のいろいろなメロディーが聴こえてくるようになりました。(河村)
- ▼今回はメリーロード高輪の取材をしました。歴史があり、近隣の再開発で未来も明るい地域の商店街の今後の動きが楽しみです。(菅野)
- ▼親戚の結婚式で入った貴賓館。まるで中世ヨーロッパの貴族の館に招かれたような素敵な雰囲気でした。いつまでも、このまま大事に保たれてほしいと願っています。(滝川)
- ▼自分が担当しなくても、毎回いろんな方のお話を伺い、もつともつと、地域のことを皆様知って頂くお手伝いが出来ればと思います。(松島)
- ▼都心にあっても、落ち着きを感じる素敵な商店街メリーロード高輪。いつも利用しています。(三村)
- ▼テラー大駒さんでは、ボタン付けや体操服のゼッケン付けの依頼もあるそう。新たなニーズに対応していくことで長くビジネスが続くですね。ガンバレ地元商店街!(森)
- ▼情報紙のお仲間に入れていただいたおかげで、この地域に友人・知人が増え、楽しく有意義に過ごしています。有難うございます。(安)
- ▼今回登場した読者のおすすめ料理は中嶋路子さんのポルトガル料理。ポルトガルの人も大の魚好き。和食に似て、とっても親しみやすい味でした。(谷知)
- ▼前回22号で紹介した、迷彩色に塗られた高輪台小学校に実際に通っておられた田口さん、戦中、戦後のお話を伺い、平和を大切に思う気持ちが伝わってきました。(吉田)
- ▼前田勝光さんが代表のグループ、MMRが「新しいものづくり」に頑張っている姿を応援したいと思います。(渡邊)

区民編集メンバー

- 安藤洋一(チーフ) 梶昌夫 森裕子
- 谷知貞江(サブチーフ) 河村保弘 安勢津子
- 吉田由紀子(サブチーフ) 菅野真美 渡邊義信
- 明石美穂子 滝川まりえ
- 伊関則子 松島佐紀子
- 内村琴美 三村晴子

※この情報紙は、区が公募し応募のあった地域住民と、区との協働でつくられています。

毎週水曜日は午後7時まで受付

※取扱業務は限定されます。

事前にご確認ください。

区民課窓口サービス係

5421-7612 / 保健福祉係

5421-7085